

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072400312		
法人名	株式会社 コスモ		
事業所名	グループホーム こすも		
所在地	福岡県筑後市高江72番地 (電話) 0942-51-1755		

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】 (平成19年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	8月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	18 人	常勤	16人,	非常勤 13人, 常勤換算 7.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月15日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	80歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永田医院・ひらき医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、田圃や畑など自然環境の豊かな場所に立地している。敷地内ではヤギが1匹飼われ、見る人の心を和ませている。利用者が集う居間からは、自然豊かな風景が望め、開放的な雰囲気が漂っている。事業所で行われるレクリエーションは、身体機能の低下を予防するだけでなく、利用者と職員、利用者同士のコミュニケーションを円滑にすることに役立っている。利用者に笑顔が伝わるようにと、職員はいつも笑顔で利用者に接している。また、地域の老人会や公民館活動などに参加して、地域との交流を図っている。老人会などでは、認知症予防の話をしたり、介護相談を受ける等、地域密着型サービスとしての役割も果たしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された衛生管理及び注意の必要な物品の管理については、管理マニュアルやチェック表を作成するなどし、改善に対して前向きな取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員とも評価の意義を理解しており、管理者と職員が協議・評価を行い、運営者が取りまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所側からは、運営やサービス提供の方針の説明や外部評価での評価結果等を報告している。委員からは、事業所への要望、助言などを貰い、サービスの向上につなげている。また、運営推進会議の中で介護保険や認知症などについての勉強会も行い、運営推進会議の委員の事業所への理解も深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月1回、ホーム便りを発行して生活状況を報告したり、家族の訪問時や家族会で話をしている。また利用者の心身状況について、変化や問題があった場合には、その都度連絡している。家族等との関係を大切にして、意見や要望が言いやすい関係を作っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の老人会や公民館活動などに積極的に参加している。小学生の訪問や中学生の職場体験を受け入れている。事業所主催の夏祭りなどには地域の人やボランティアの参加もある。また、老人会のミニデイサービスに運営者が出向き、介護相談や認知症予防教室を開催して、地域と交流することについて積極的に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「介護から快護へ」という理念のもと、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともに日々理念の確認がなされている。また職員は利用者が精神的に落ち着いて安定した生活が送れるように、利用者との関係性を大切にしたり、ストレスをためないように利用者の話をよく聴くようにしたりと、理念の実践に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の老人会や公民館活動などに積極的に参加している。小学生の訪問や中学生の職場体験を受け入れている。事業所主催の夏祭りなどには地域の人やボランティアの参加もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価の意義や目的についてよく理解していて、前回の評価で見出された課題に対しても全職員でカンファレンスし、マニュアルと改善シートを作成し、改善している。自己評価は、管理者と職員が協議・評価を行い、運営者が取りまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営やサービス提供の方針の説明や外部評価での評価結果などを報告している。また委員から出される要望や助言を、サービスの向上に活かしている。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談しやすい関係ができており、市長申し立てによる成年後見制度の実現に結びついた事例がある等、問題に対して協働して解決にあたっている。また、行政主催の研修講師を受託している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度に関する外部研修を受講し、受講後はスタッフ会議等で全職員に伝達講習を行っている。運営者等は理解しているが、全職員が理解するまでに至っていない。	○	定期的に勉強会や外部研修に参加する等して、全職員の制度に関する理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホーム便りを発行して生活状況を報告したり、家族の訪問時や家族会で話をしたりしている。利用者の心身状況について変化や問題があった場合には、その都度連絡している。金銭については、毎月末、家族に金銭出納帳や領収書等を確認してもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見や不満、苦情などが言い出しやすい関係を日頃から築くよう、家族の訪問時等に職員は積極的に声かけを行っている。出された意見等は、運営に反映させるよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1人の利用者に2人の担当者を付けて、離職者が出ても利用者へのダメージが最小限になるように体制を整えている。退職者が出た場合も約1ヶ月間引き継ぎの期間を設け、スムーズに移行できるようにしている。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用にあたっては、年齢や性別などの差別なく、本人の能力や適性などを考慮し、検討している。また、職員が能力を発揮できる職場環境作りを心がけている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する研修に職員が参加している。研修の内容についても報告書やスタッフ会議の中で報告をし、他の職員にも伝達している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修内容に応じて職員が研修に参加できるようにしている。また、行政やグループホーム協議会に研修の充実等について働きかけを行い、さらに事業所独自の内部研修の充実も図るよう努めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入している。市内外のグループホーム事業所との交流があり、研修や意見交換なども行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居間もない利用者には、1ヶ月間程は施設長ができるだけ寄り添い、本人が安心して新しい環境に慣れるように配慮している。</p>		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から生活の知恵など（玉ねぎの干し方、野菜の作り方など）を教わることもあり、共に支え、支えられる関係が築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添いながら話に耳を傾け、本人の希望や意向を引き出すようにしている。また認知症のアセスメントシートを使って、希望など表出が困難な利用者への理解を深めて、希望や意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族から聴き取った情報や意見、日々の関わりの中での職員の気づきや意見も反映させて、スタッフ会議で検討し、利用者主体の介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、スタッフ会議の中で本人、家族、職員等の意見を反映させて介護計画の見直し、また、状態に変化などがあった場合は現状に合った計画の見直しを行っている。家族が了承した押印がある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>24時間医療連携が可能で、病院への通院や送迎には看護師が付き添っている。また入院した場合には、家族とともに事業所の管理者、責任者なども病院の退院会議に参加し、退院後の支援に向けて連携を図っている。</p>		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等と話し合って意向を確認して、希望するかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。通院には事業所の看護師が付き添い、医療との連携を密にしている。また必要な利用者には、訪問看護サービスを導入している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員の力量など諸条件を勘案して、主治医との連携・支援していくことの大切さを経験から学び、利用者や家族の意向を尊重し、重度化や終末期のケアへの取り組みを行う体制作りができています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する礼儀やさりげない介助を心がけている。また、介護に必要な個人のプライバシーに関することは記録として残さないようにしたり、重要書類などは事務所の鍵のかかる書庫に保管して、個人情報の取り扱いには厳重に注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先でなく、利用者のペースに沿って支援している。1日2回実施しているレクリエーションは自由参加である。ソファに座って利用者同士でおしゃべりをしている人、お昼寝をしている人、洗濯物たたみをしている人などが見受けられ、自由に自分の時間を過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲み同じ物を食べて、楽しく食事をしている。時には敷地内の畑で採れた野菜なども食卓に並ぶこともあり、話の種となっている。		

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきではあるが、希望に合わせて入浴回数や時間など臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力などを把握して、習字や裁縫、園芸、洗濯物たたみ等、本人にできることや得意なこと、楽しみごとを増やすように努めている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や外気浴の他に、利用者の希望にそって、買物や外食、ミニドライブなどの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠していない。玄関の開閉時には鳥のチャイムが鳴り、人の出入りをさりげなく知らせる工夫があり、また職員の見守りに対応している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練をしているが、災害マニュアルは作成していない。近くの消防団に声かけをして協力が得られるよう働きかけているが、避難訓練への参加には至っていない。	○	災害時等に備え、マニュアルを作成し、地域住民の参加や協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また非常食や備品の準備・確保も行ってほしい。

2. 評価結果 (詳細)

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェック表に記録して、利用者の栄養摂取量等を把握している。栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の明るさが取り入れられた居間は、季節の飾り等もあり、居心地の良さが感じられる。家具なども家庭的なものが使われ、落ち着いた雰囲気である。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を活かして、落ち着いてその人らしく過ごせる部屋になるように配慮している。		

※ は、重点項目。